

# 高山植物「お花畑」消滅か

荒地地にりんとしたピンクの花を咲かせるコマクサ、白い花びらが愛らしいチングルマ。高山植物のお花畑は登山の楽しみの一つだが、地球温暖化がこのまま続けば消滅する危険性が高いとの予測を、国立環境研究所茨城県つくば市の研究グループが公表した。

高山植物は、気温が低く高木が育たない高山帯に生育する植物のこと。地球温暖化で気温が上がり現在の場所で生きられなくなった場合、より気温が低い場所が近くにないため、種の飛散などで移動して生き残ることが難しいと考えられている。

研究グループは、365種もの高山植物の生育が知られている北海道の大雪山国立公園を対象とし、植物の分布調査結果、気温や積雪のデータ



「高山植物を残すためには、温室効果ガスを最も削減するシナリオを実施する必要があります」と話す石浜史子・国立環境研究所主任研究員

## 環境研

### 地球温暖化継続で

を基に、各植物の生育に適した場所の面積を推定する統計モデルを作成した。

その上で、夏も雪が残る湿った土地で育つチングルマなどの「雪田草原」風が強



▲チングルマのお花畑

いた場所に生えるコマクサなどの「風衝草原・荒原植生」、高山から高山の下の亜高山に分布する「低木群落」、温暖化で高山に進出するとみられる「ササ群落」「亜高山帯森林植生」の生育に適した場所が、今後どう変化するかを予測。国際的な科学誌に論文を発表した。

予測によると、温室効果ガスの排出が現在のペースで続き、2100年の世界の平均気温が4.1〜4.8度上昇するシナリオでは、2050年に雪田草原と風衝草原・荒原植生に適した場所がほぼ消失。低木群落に適した場所も2100年にほとんどなくなり、「亜高山帯森林」の適地に置き換わる。

温室効果ガス排出を大幅に減らして2100年時点で1.5〜1.7度の気温上昇を抑える温暖化対策の国際的枠組み「パリ協定」の目標達成に相当するシナリオでは、雪田草原と風衝草原・荒原植生に適した場所は大きく減少するものの、2100年時点でも一部が残る可能性があるという。

中部山岳高山帯も、同様の危機にある。県環境保全研究所（長野市）などは2019年、現状の温室効果ガス排出が続けば今世紀末に北アルプスの高山植物が大幅に減り、高山植物を食物とする絶滅危惧種ニホンライチョウの生息地もほぼなくなると報告している。

研究グループの石浜史子・国立環境研究所主任研究員は「高山植物がどのような状況にあり、なぜ消滅の可能性があるのかを知り、保全に関心を持っていただければ」と話している。



植物の調査を担当する小熊宏之・国立環境研究所生物多様性保全計画研究室長



高山植物の女王と呼ばれるコマクサ

国立環境研究所主任研究員は「高山植物がどのような状況にあり、なぜ消滅の可能性があるのかを知り、保全に関心を持っていただければ」と話している。